今月の読み物

「見たり、聞いたり、探ったり」No.263

通算 No.414

青　木　行　雄

ヨーロッパ魅惑の小国
サンマリノ共和国と
サンマリノ神社（日本神社本庁公認）

ヨーロッパ・イタリア中部、アドリア海側に位置する小国サンマリノ、世界最古の共和国であり、平和と自由を重んじる軍隊を持たない国、公用語はイタリア語、民族はラテン系である。面積は東京、世田谷区ほど（62㎢）で人口は約３万６千人、世界で５番目に小さな小国であると言うが、大変魅力的な国と聞く、後記するが、この国でサンマリノ神社建立の時、参加出来なかった事が今でも大変残念に思っている。

サンマリノのティターノ山にそびえる要塞の塔、ユネスコの世界文化遺産、中世の街並が保存され、機能しているという

サンマリノ神社【小社（おやしろ）】
伊勢神宮よりの木材にて

このサンマリノ神社の部材が伊勢神宮式年遷宮による20年に一度のつくり替えによる木材の一部が使用された。この国の日本駐日大使は日本人以上に日本への造詣（ぞうけい）が深く、敬虔（けいけん）なクリスチャンでありながら、神道に傾倒（けいとう）し、母国にヨーロッパ初の神社本庁公認神社を設立建立（こんりゅう）に尽力されたマンリオ・カデロ特命全権大使と言うイタリア生まれの方である。

明治神宮の明治記念館「富士の間」で毎年２月３日節分後に「出羽三山（でわさんざん）、大江戸山伏勧進大祈願祭（おおえどやまぶしかんじんだいきがんさい）」が盛大に催行されるが、ここにも主賓で毎年かならず参列されるマンリオ・カデロ氏で、もちろん挨拶は日本語である。

もう少々「サンマリノ」について記してみると、首都はサンマリノ市であり、特にＦ１レースは有名で、2006年（平成18）まで「Ｆ１サンマリノGP」の名前で知られている、実際はイタリアのイーモラ市で開催

されていた。

サンマリノの歴史について

伝説によれば、紀元301年、ダルマチア人の石工だった「マリノ」が、カトリック教徒であったために、ローマ皇帝ディオクレティアヌスの迫害を受けた。それを逃れてテイターノ山に登り、ここで伝道を続け、彼のもとに次第に集まった人々により形成された集団がサンマリノの起源といわれている。

初めはアレンゴ(家長の集会を意味する)のメンバーから選出された代表者が指揮を執り、統治していた。現在も延々と施行されているという、２名の執政(大統領に匹敵するもの)が６ヶ月ごと(４月と10月)に選出される統治制度は、1243年(寛元１)アレンゴのメンバーから２名の執政が選出されて以来、現在に至るまでほとんど変化なく続いている。1252年(建長５)には世界最初の共和国体制が出来上ったようだ。

サンマリノ共和国はイタリア半島にある世界で５番目に小さい世界最古の共和国である。サンマリノ共和国へは、アリタリア航空の成田～ヴェネツィア便（2014年４月就航）が便利。ヴェネツィアからリミニまで電車で約３時間、リミニからサンマリノまで車・バスで約30分。
アリタリア航空　http://www.alitalia.com/jp_ja/

イタリア、上中部アドリアン海側に「サンマリノ共和国」がある

また、アレンゴは、その後、行政及び司法上の権限を「大評議会」と呼ばれる60名の評議員で構成される議会に委譲している。この評議員の任期は５年、主な仕事は普通の国の政治家とほぼ同じである。条件は25歳以上で普通読み書きができれば誰でもなることが出来るが、聖職者、外交官、領事でないこと、また親子が同時に評議員になることはできない。そしてほとんど報酬はない。実質的には全部ボランティアである。他に仕事を持っているということもあるが、大きな名誉を得ることで報酬はいらないというのが最大の理由であるという。

日本の政治家はひとりの国会議員には１億円超の国費がかかると言うからこの点ではサンマリノ共和国とは大違いである。

第２次世界大戦の際にもサンマリノは独立、民主、そして中立を守ってきた。サンマリノ人は、古来の伝統に忠実であり続けることが時代の要請に応えることと考えている。

1992年(平成４年)から国連にも加盟した、日本とサンマリノの外交関係は1956年(昭和31年)からずっと友好的に継続している。それには、日本をこよなく愛し、神道や天皇制のありかた、天皇、皇后を心から尊敬し、ヨーロッパで初めてのサンマリノの神社を建立に尽力したマンリオ・カデロ氏の功績は大変大きい。

神社本庁と伊勢神宮について

神社本庁とは伊勢神宮を本宗とし、日本各地の約８万社の神社を包括する総本山である。ヨーロッパ初の神社本庁公認のサンマリノ神社も約８万社の仲間入りを2014年（平成26）６月に建立しその１社となった。

門前の鳥居の上に書かれている額

サンマリノ神社正面より、建物はアクリル板の建物か？
前の灯篭も日本製

伊勢神宮とは、皇室の氏神様である天照大御神（太陽を神格化した神様）を祀る「皇大神宮」（一般には内宮）と、衣食住の守り神である豊受大御神を祀る「豊受大神宮」（一般には外宮）の２つの正宮からなっている。正式名称は「神宮」。伊勢という言葉はつかない。昔から親しみを込めて「お伊勢さん」「大神宮さん」とも呼ばれ、江戸時代にはお伊勢参りが一大ブームになったとも聞いている。

第２次世界大戦後、宗教法人神宮庁の発足により、神宮は全国神社の本宗とされた。つまり、サンマリノに建立の神社も、神宮を頂点とする巨大な神道の一神社として誕生したのである。神宮の内宮前には神宮司庁があり、神職約100名が奉職している。

この伊勢神宮の式年遷宮は、前にも記したが原則として20年ごとに行われ、内外両宮の正殿をはじめとして、別宮以外の神社の正殿をつくりかえ、神座を遷し、計65棟の殿舎をつくり替える儀式をさす。

神宮は、この式年遷宮を絶やさないために伊勢に約5500ヘクタールの神宮宮域林を持っている。五十鈴川の水源である３つの山に広がる山林で、毎年約２万本もの、桧、杉の植林が行われ、御用材を自給することを目指していると聞く。

サンマリノの経済について

サンマリノは鉱物資源を持たず、国土の65％が農地、森林、松林である、元来、経済は農業、酪農、石切に基盤を置いて来たが、この数十年間に、軽工業、観光が大きく発展してきた、サンマリノの通貨はユーロである。サンマリノ発行のユーロ通貨もあるが硬貨のみ、サンマリノはEUのメンバーではないという。

〈農産物〉　小麦、大麦、とうもろこし、ワイン、オリーブオイル、野菜

〈工業製品・手工芸品〉

セメント、合成ゴム、皮革、塗料、タイル、服地、既製服、家具、陶芸品、石製、金属製、木製の手工芸品、菓子類など

サンマリノ共和国産のワインは様々な農産物と同様、政府が生産しており、その品質は国が保証している。基本的な酒類は全て取り揃えているらしい。また、コーヒーも政府からその品質を認められている。個性を持つ長持ちするドライケーキなど美味しい食品も多々あるという。

また、サンマリノは、陶器が有名で、街中のお店で手に入る。さらにトランプ、タバコ、貴金属、土産物にも良いものが沢山ある、サンマリノに訪れるイタリア人とサンマリノ以外の外国人には消費税はかからないらしい。

サンマリノに日本の神社が出来てから、神社に隣接するブドウ畑があるが、このワインを、「オミキ・ワイン」と名付け、12支の干支（えと）にちなんで、毎年新ラベルを貼った新ワインが、日本に輸出されている、なんとすばらしい発想だと感心する。もちろん、このワイン東京新橋の店で手に入れることが出来るが大変美味しい。

伊勢神宮の式年遷宮が2013年（平成25）第62回目の「遷御の儀」が催行（さいこう）され、外国人参列者４人が招待され、その内の１人がマンリオ・カデロ大使閣下であった。本人の感想は、「数時間に及ぶ遷御の儀の間、参列者全員、身動きもせず、おしゃべりもなく、忍耐力を目の当たりに、それは厳かで素晴らしいものでした」と驚愕（きょうがく）（非常に驚くこと）したと本人はいう。

サンマリノの街並

サンマリノの建物に人物の彫刻像がみえる

サンマリノ神社の周辺の風景、隣接はぶどう園

※2020年（令和２）世界的に猛威をふるっている新型コロナウイルスが例外も無く「サンマリノ」にも襲来した。サンマリノ日本大使館からも本国に支援金を送るという事で、2020年７月少々の寄付をさせてもらった。

さっそく大使館より感謝状と、２本のワイン（干支ワイン）が送られて来た。もちろん赤と白の干支「ね」（ねずみ）のオミキワインであった。またまた日本にも第６波の襲来でオミクロン株の猛威はどこまで続くのだろうか。（令和４年１月28日まで、日本全体累計感染者数、死者数）

４年１月28日までの日本全体累計感染者数	2,519,875人
〃　死者数	18,693人
４年１月28日（１日）の日本全体新規感染者数	81,822人
〃　東京都	17,631人
〃　大阪府	10,013人
４年１月28日までの世界全体累計感染者数	366,299,970人
〃　死者数	5,637,720人
４年１月28日までの米国累計感染者数	73,427,616人
〃　死者数	878,466人
４年１月28日までのサンマリノ累計感染者数	12,625人
〃　死者数	109人

いただいた「オミキ・ワイン」ラベルの中に鳥居とネズミの画、下に英語でSAN MARINO.omiki wineの字が見える

マンリオ・カデロ氏と、大使館の応接間にて、２ショット

現在のマンリオ・カデロ閣下

日青木材株式会社　殿

感謝状

新型コロナウィルスのパンデミックという困難な状況に心からのご理解をふされ、ご寄付を賜りましたことに心から感謝いたします。よってここに、サンマリノ共和国を代表して、ご厚意に対し深く感謝の意を表します。

サンマリノ共和国特命全権大使
マンリオ　カデロ
2020年７月

Honorable Nisseimokuzai Co., Ltd.

Certificate of Gratitude

We would like to express our sincere gratitude for your warm understanding and generous donation for the difficult situation of the New Coronavirus World Pandemic. Here, in behalf of the Republic of San Marino, we would like to express our deep appreciation and sincere thanks for your kind cooperation.

Ambassador Embassy of the Republic of SAN MARINO
Manlio CADELO
Tokyo July 2020

いただいた感謝状（2020年７月１日）

令和４年１月28日の全国感染者数、日本テレビより、赤が過去最多、１月新年より急拡大した全国の数字。（１日の感染者）

東京都港区にあるサンマリノ大使館

サンマリノ大使館の玄関

サンマリノ神社はすべて三重県伊勢市で作られた。手水舎（手洗い場）、灯籠、神社（小社）等、すべて一度伊勢で組み立てられ確認されてから解体され、2014年（平成26）３月に船でイタリアに運び、イタリア港で陸揚げされた資材は、陸送でサンマリノまで運ばれ、日本から行った宮大工とサンマリノの建築会社の職人が力を合わせて組立てられた。普通の神社の木造建築は釘を使用しない、精巧な技術で造られていて、木の文化である日本独自の建築技術が初めてヨーロッパの地サンマリノで披露されたのである。もともと石の文化である現地では理解できない技術とかで、大勢の一般人や建築を学ぶ学生たちが見学にこられたようだ。

こうして、ヨーロッパ初の日本神社が建立された。

そして日本文化のすばらしい伝統の伝承で木造の神社、しかもお伊勢さんの木材、神社本庁公認の「サンマリノ神社」が遠いヨーロッパ約７億5000万人の人口、異文化の国に、日本の神社が海を渡って誕生、大変貴重な記念すべき建立であった。

参考資料

サンマリノ共和国パンフ

『だから日本は世界から尊敬される』

マンリオ・カデロ著、小学館

NHKテレビ、日本テレビ

令和４年１月16日 記